

シンガポール便り 1 2 3

2017年3月15日 三好 隆志

食べ物1

まずは、シンガポールというこのチリクラブ Chilli Crab です。これは、1950年代に生まれた料理だそうです。茹でたカニに、トマトベースのスパイシーなソースがたっぷりとかけてられています。いかにもアジアンエスニックな唐辛子と酸味と甘味がブレンドされた味付けです。辛い料理が好き人は、一度食べるとやみつきになるかもしれません。カニの種類はドウマンガニ、マッドクラブやスリランカクラブ、ソフトシェルクラブなど意外と豊富です。それらのカニに味噌、チリ、トマト（ケチャップ）、にんにく、たまごで作られたソースをかけています。だから、もちろんカニそのものもですが、このソースも美味しいです。そして、ごはんを食べるのではなく、マントウ（饅頭）にソースをつけて食べます。マントウはパンのようなもので、揚げてあるものや蒸してあるものがあります。チリクラブのソースだけだと辛いと思いますが、このマントウと一緒に食べると辛さも少し緩和されます。



次の写真は、クリーミーバタークラブ Creamy Butter Crab です。一番新しいカニの料理のようです。実は私はチリクラブより好きな味です。まるでフランス料理のような上品な味付けです。全く辛いので、子どもでも食べることができます。カニの身もしっかりしていて、食べごたえ十分です。また、マントウでクリーム状のバター・ソースをつけて食べると大変美味しいです。



次は、ブラックペッパークラブ Black Pepper Crab です。その名のとおり、黒コショウとカニを炒めた非常にスパイシーなカニ料理です。他にホワイトペッパーというのもあるようです。味付けにはバターやニンニク、生姜、唐辛子などが使われ、芳ばしい香りです。コショウの量がすごく多いのが特徴で、蟹の甲羅が黒く見えるほど大量の黒コショウが使われています。初めて食べるとその刺激にびっくりするかもしれませんが、ほのかに甘い蟹の旨味とコショウの辛味のコンビネーションは絶妙です。食べ進めるうちにやみつきになって、ビールには一番合うかもしれません。ブラックペッパークラブは1980年代に登場した比較的新しい料理だそうです。他にも、下の写真のように色々な食べ方があり、値段は1匹が5000円くらいになります。



シンガポール便り 1 2 2

2017年3月10日 三好 隆志

ベトナム旅行8

ベトナム特集の最終回です。今回は、ベトナム戦争についてです。ベトナムは、1887年にフランスの植民地になりました。第2次世界大戦で、日本がベトナムを支配しました。戦後は、北の共産主義国と南の資本主義国に分かれてしまいます。アメリカ軍が1965年から本格的に介入して、約10年間の長い戦いになりました。このベトナム戦争は、第2次世界大戦後のもっとも規模の大きい戦争で、戦死者行方不明者の数は800万人にも及び、民間の犠牲者が半数以上にのぼるそうです。ちなみに、太平洋戦争での日本人の犠牲者が300万人くらいだそうですから、ベトナムにとっても大変な戦争であったことが分かります。また、アメリカにとって歴史上はじめての敗北で、繁栄に影がさしはじめ反戦運動が起こりました。

さて、ホーチミンにはこのような戦争の歴史を世界や後世に伝えるために、戦争記念館があります。本物の戦闘機や戦車などが中庭に展示されていました。館内に入ると、数々の悲惨な写真が展示されていました。また、枯葉剤による奇形児の標本もありました。非常に残酷で戦争の恐ろしさを痛感します。しかし、救われる展示物もありました。それは、子どもたちが描いた平和を題材とした絵です。子どもが描く絵は、本当に自由に表現力が豊かです。だから、最後に展示してあったこれらの絵を見ると、ほっとするし未来に希望を感じます。

その他のホーチミンの施設では、かつての大統領官邸が見学できました。すごく広大で豪華な施設でした。来賓を迎える応接間などだけでなく、プライベートな大統領の寝室も見学出来て良かったです。また、地下壕めぐり「クチトンネルツアー」や、メコン川クルーズがあります。バスで2時間程度のツアーで貴重な体験ができ、ホーチミンに来たらほとんどの人が訪れる観光地になっているということでした。



シンガポール便り 1 2 1

2017年3月5日 三好 隆志

ベトナム旅行了

今回は、ホーチミンから離れて国内航空でダナンに行った時の報告です。距離は、約600kmで岡山と東京くらいでしょうか。飛行機で約1時間、料金は往復7000円でした。12月は冬に当たりますが、昼間が25℃で夜が20℃くらいと過ごし良かったです。これが、首都のハノイになると、もう5℃くらい下がるらしく、Tシャツ1枚では寒いと思われます。ベトナム中部アクセスの中心都市ダナンは、100万人都市で港を中心に栄えてきたそうです。最近、ビーチリゾートが注目され、日本からも直行便が出ています。そして、ホテルもシェラトンやハイヤットなど大型高級ホテルが立ち並んでいました。冬は、ベトナム随一とも言われる真っ白なビーチが魅力のダナンでも、泳ぐには寒いでしょうが、夏はたくさんの旅行者が滞在することでしょう。さて、このダナンから「ホイアン旧市街」「古都フエ」「ミーソン遺跡」という3つの世界文化遺産へ行くことができます。その中でもホイアンは1時間弱で行くことができるので、ホーチミンから日帰りで行ってきました。ちなみに、あとの2つは往復5時間から7時間だそうです。地方都市なので、渋滞は全くなくて空気もきれいでした。さて、ホイアンは、ランタンに照らされる夜の街並みが有名です。日が暮れると共に、ホイアン名物のランタンに明かりがぼんやり灯ります。日本の夏祭りには、子どもたちの習字をとうろうに飾ることがありますが、似たような風情があって懐かしい感覚が不思議です。

さて、世界遺産に指定されているホイアンには、歴史保護地区内に約21か所の名所が点在しているそうです。この名所には、1セット5枚綴りのチケットが必要で約600円でした。てくれます。また、川沿いの通り「バクダン通り」には、レストラン・カフェが並んでいて値段も安いです。小舟で川を周遊して両岸に広がる風景を楽しむこともできます。土産物は、ランタンで、ホイアンの一番の名物です。職人の方が一つ一つ手作業で作っていて、色とりどりのランタンは明かりがつくととてもきれいです。また、刺繍や切り絵や習字、シルクや木彫りなどがあって、市場で買うことができます。値段は交渉次第で、私は、A4サイズの刺繍を、最初は2500円でしたが半額に負けてもらって買うことができました。



シンガポール便り 120

2017年3月1日 三好 隆志

ベトナム旅行6

今回は街を歩いていて気付いたことです。右の写真は、バイクで売っていた子犬です。経済的にゆとりが出てきた人たちが買うのでしょうか。しかし、予防接種など病気は大丈夫か心配にはなります。命あるものですから、家族の一員として10年以上という長い年月を大切に飼ってほしいと思いました。

次の写真は、コンビニエンスストアです。ファミリーマートやサークルKをよく見ました。ローソンやセブンイレブンは見なかったです。また、日本のように広い駐車場をもつ郊外店もないようでした。

次の写真は、歩道を走るバイクです。他にも、一方通行を逆走してきたり、信号無視で走ってきたり、非常に危険です。でも、何日かたつと慣れてきました。ゆっくりと合図をしながら道路を歩いていると、バイクがよけてくれるのです。ただ、排気ガスには慣れなくて、当分気管支が苦しかったです。しかし、北京から来た人が、ホーチミンは空気がきれいですねと話していたそうなので、上には上？があるのだなあと思いました。

次の写真は、サイゴン大教会です。1880年にかけてフランスの入植者によって建築されたネオゴシック様式のカトリック大聖堂で、建築に使われた材料はすべてフランスから輸入されたそうです。近くで見るとすごく迫力がありました。高さは60mもあるそうです。驚いたのは、ポケモンの着ぐるみがいたことです。もしかしたら、ポケモンGOがベトナムでも流行しているのかもしれませんが。その右の写真は、靴磨き屋さんです。歩いていると、何人にも声をかけられました。

次の写真は、ごみ収集の様子です。リヤカーのようなもので歩きながらごみ箱のごみを片付けていました。街には、たくさんごみ箱が設置してあって、クアラルンプールやジャカルタよりもきれいだと思いました。シンガポールでは、これを自動車で集めて回っています。

最後の写真は、日本の商品を扱っている店です。ホーチミン市内中心部にある「レタントン通り」には、日本食レストランも多く、日本人街とかリトル東京とかと呼ばれているそうです。居住者はほとんど日本人というマンションなども多く建ち並んでいました。



シンガポール便り 119

2017年2月25日 三好 隆志

ベトナム旅行5

宿泊していたホテルは、ホーチミン中心街のレロイ通りにあって、将来的に地下鉄4路線が乗り入れ市内最大のターミナルになるベンタイン総合駅に近い場所にありました。付近を散策していると、高島屋を発見しました。まだ、開店して半年だそうです。ベトナムに日本の大手デパートが進出したのは、この高島屋が初めてと聞いて驚きました。高島屋の海外進出はシンガポール、上海に続き3店舗になり、今後もバンコクに出店予定だそうです。写真のように SAIGON CENTER という名前の施設内に入っており、地上5階、地下2階という構造で、地下2階はお菓子やスイーツを販売する店や日本食店、日本の食材を並べているスペースがあるなど、日本の「デパ地下」のようでした。

サイゴンという地名は、以前呼ばれていたわけですが、ベトナム戦争で北ベトナムが勝利し、ホーチミンに変わったわけです。でも、市民は自分たちを昔の地名であるサイゴン人と呼び、ハノイや他の地域とは違うという自負を持っているようです。また、このサイゴンセンターのように、「サイゴン」という地名を使った店舗などはたくさん見られました。

高島屋ができてまだ間もないためか、地方から出てきたお上りさんが多かったのか、入り口ではたくさんの方が写真を撮っていました。中に入ると、まずメリーゴーランドがありました。ここも、たくさん子どもたちが集まっていました。そして、憧れの商品をディスプレイしている中に、バイクがありました。プジョーのバイクでした。日本では、あまり見ないメーカーですが、フランスの植民地だったから、フランスのメーカーは馴染みがあるのではないかと思います。

奥に入ると、吹き抜けのホールがあって、特設のアイススケートリンクになっていました。常夏のホーチミンですから、雪やアイススケート場などは憧れなのでしょう。客寄せの目玉になっているようでした。この施設は、約210ブランド擁する「ホーチミン高島屋」だけでなく、145店舗の専門店も入居していました。高島屋の食料品売り場には、ホーチミン日本人学校の3年生が社会科見学で来た時の絵日記が掲示されていました。みんな日本国内と同じようがんばっていました。



シンガポール便り 118

2017年2月20日 三好 隆志

ベトナム旅行4

ベトナムの住宅事情ですが、ホーチミンでは写真のような店舗が多かったです。ウナギの寝屋みたいに間口が狭く奥行きがあります。5m×20mくらいで揃っているような感じです。多分京都のように間口で税金がかかるのではないのでしょうか。また、地震が少ないため、3～4階建てくらいが多いようです。そして、建設中のビルがいくつかありましたが、何と壁は写真のようなレンガを貼っているのです。このあたりは、インドネシアやタイなども同じみたいです。万が一地震が起こったら、上からバラバラと降ってきて大惨事になると思います。

さて、次の写真はベンタン市場です。ホーチミン市の中心部にあって、毎日大勢の観光客が押し寄せていました。運動場位の広さ約1万㎡の場内に、2000軒以上のお店が並ぶ巨大な市場です。営業時間はお店によって異なりますが、だいたい朝7時頃に行くと写真のような準備をしたり、店の人たちが朝ご飯を食べていました。そして夕方5時ころになると片付けを始めていました。夜になると、その外の通りに市場ができていました。値段は、交渉になります。観光客には4倍くらいの値段から話を始めてくる感じでした。私は、ベトナム語が話せないし、時間がかかるので、だいたい言い値の半分以下になったらあきらめて買ってしまいました。でも、同じものをもう半分近くに値切って買っていた人がいたから驚いてしまいました。売っているものは、Tシャツ、布地、刺繍小物、アクセサリー、工芸品、サンダル、バック、食料品、珈琲、スパイスなど多種多様です。グッチやコーチなどのバックもありましたが、もちろん偽物です。偽物を買って税関で没収されても悲しいのももちろん買いませんでした。

夕方5時くらいになると市場が閉店しだして、代わりに駐車場辺りにたくさんのテントの準備が始まりました。商品は、必ずしも場内のお店と同じではないです。衣料品、サングラス、装飾品やアクセサリー関係などです。そして、食事の屋台もたくさん出てきます。エビやカニを生きたまま豪快に焼いていました。ここでの食べ歩きが、観光客の楽しみの一つのようです。にぎやかさは夜の12時くらいまで続いていました。



シンガポール便り 117

2017年2月15日 三好 隆志

ベトナム旅行3

前号でベトナムの交通事情をお話ししましたが、写真のようなバイクの洪水や交通渋滞を何とかしなければ、都市の機能が滞ってしまいます。ホーチミンで一番高いビテクスコ フィナンシャルタワー (サイゴン スカイデッキ)に上がって市内を展望しました。68階建てで、展望台のスカイデッキは49階にあります。5年ほど前に韓国の建設会社で作った262mのビルで、入場料は1,000円でした。また、2018年には、高さがベトナム一となるランドマーク81(Landmark81)という超高層ビルができるそうです。しかし、展望台からの景色は、意外に高層ビルは少なく、灯りもきらびやかではありませんでした。もしかしたら、電力不足によって大きなイルミネーションは作りにくいのかもかもしれません。まだまだ発展途上だと思いました。特に、交通のインフラは改善していかなければいけません。すると、JICAの看板が目に入りました。地下鉄などを作っているようでした。工事を受注したのは清水建設と前田建設によるジョイントベンチャーで、地下鉄1号線全線の開業は2020年だそうです。計画によればホーチミンの地下鉄・高架鉄道はこれ以外にも、ライン2からライン6まで合計6路線を作ることになっていて、完成すれば渋滞も緩和し街の風景も一変しそうです。

ベトナムは、経済発展がめざましく、日本企業もたくさん進出しています。それは、比較的治安が良いことや、国民が勤勉で穏やかなこと、人件費が月の平均所得が2万円ほどと安価なことなどによります。また、ベトナム戦争やその後のベビーブームより、国民の平均年齢が約30歳と若いのも特徴の一つで、活力があふれています。それで、ホーチミンにも8,000人近い日本人が暮らしているそうです。日本人学校も、400人くらいが在籍している中規模校になります。ちなみに、首都のハノイもホーチミンに近い規模だと思います。ホーチミンは、経済の都として、人口は800万人に迫る大都市になっています。また、最後の写真は、電柱にくっついてあった電線です。電柱を地下に埋設している日本の都市とは対照的でした。

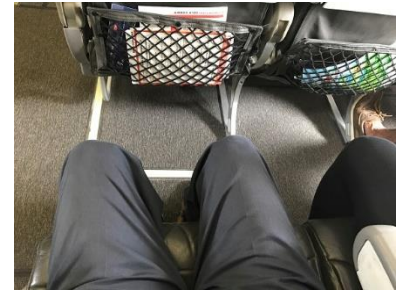


シンガポール便り 1 1 6

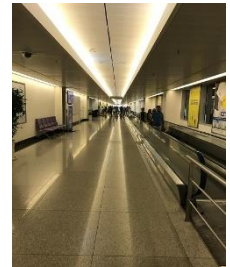
2017年2月10日 三好 隆志

ベトナム旅行2

今回のベトナム旅行は、3泊4日でした。シンガポールから約2時間、ホーチミン国際空港まで格安航空のジェットスターで行きました。だから、ホテル代を合わせて5万円くらいでした。格安航空は、他にもエアアジアやタイガーエアーを利用したことがありました。値段が安いので、テレビや飲食物のサービスなどはありません。また、座席が狭くて私にとっては2時間くらいが限界です。しかし、今回はたまたま2回も広い席になりました。それは、1番前の座席と非常口の座席だったからです。



さて、空港は日本のODAにより2007年に建設されたようで、まだ新しく清潔でした。それまでの空港は、国内線用となっていました。ビザは必要なかったのですが、税関にはたくさんの海外からの観光客が行列を作っていました。空港から市の中心にあるホテルまでは、10kmくらいでした。約1,500円の前払いチケットを購入し、正面のタクシー乗り場から40分くらいでホテルに着きました。他にも運転手と交渉して値段を決めるタクシーもありました。しかし、空港内にはメーター制のタクシーもいて、半額の700円くらいで乗ることができました。だから、最初の1回以外は、メータータクシーを利用しました。市内の交通ですが、バイクの多さには驚きました。庶民の乗り物は、バスやタクシーや自転車ではなく、ほとんどがバイクのようでした。高速道路もないようだったから、渋滞が激しかったです。また空気も排気ガスで汚れていました。白バイ警官が交差点にいても、ノーヘルであったり、一方通行の逆走であったり、4人くらい平気で乗っていたりして、マナーはあまりよくありません。後で聞いたら、子どもは乗車人数に入れなさそうです。日本では考えられないことだと思いました。また、空気が悪いため、マスクをしている人がたくさんいます。多分、喘息や気管支炎の病気が多いのではないのでしょうか。他にも、道路を歩いていると日本では自転車の不法駐輪で迷惑を受けますが、ベトナムでは、バイクの駐輪に迷惑します。また、勝手に店を出して、車道に回らないと通れないこともしばしばありました。事故が多いのではないかと心配になりました。



シンガポール便り 115

2017年2月5日 三好 隆志

ベトナム旅行

今回は、ベトナム旅行特集です。まず、食べ物です。右の写真は、フォー（Phở bò）で米麺に牛骨から取ったスープをかけ、牛肉をのせたものです。平たいライスヌードルで、ベトナムで最もポピュラーな麺類の一つです。

次は、春巻きです。揚げ春巻きと生春巻きがあります。茹でたエビやひき肉や生野菜などを米で作ったバインチャンと言われる皮で包んだものです。又クマム・砂糖・ライムの絞り汁や酢・刻み唐辛子・にんにくを合わせた又クチャムというたれが小皿で用意されるので、それにつけて食べます。甘味噌のトゥオンが代わりに出ることもあるそうです。

次は、バインセオ（Bánh xèo）です。日本では「ベトナム風お好み焼き」と言われているそうです。米粉とココナッツミルク、ターメリックを混ぜたものを強火でパリッと焼いています。中には、エビや豚肉やモヤシなどが入っています。これを一口大にちぎって、ハーブなどとレタスに似た葉に包み、又クチャムに浸して食べます。どの料理もタイやインドネシアのように辛くはなく、あっさりとした味付けです。多分、日本人の口に合うのではないのでしょうか。ただし、パクチーが苦手な人は、最初に取り除かないと食べられないものがあります。

実は、ホーチミンで庶民がよく食べるものと言えば貝料理だそうです。焼いたり茹でたり、タマリンド炒めやラード（豚油）ねぎ炒めなど作り方もさまざまだそうです。ベントイン市場には、写真のような貝がたくさん置いてありました。レン貝だと思いますが、他にもハマグリやトイ貝やジャム貝など色々な貝がありました。また、貝だけではなく蟹やエビも豊富でした。写真の蟹は、ワタリガニの種類だと思いますが、シンガポールではチリクラブという料理にして有名です。シンガポールではスリランカから輸入していると聞きました。ベトナムでは、塩・唐辛子煎りやタマリンド煎りで食べるそうです。

いずれの料理も、高級ホテルなどはともかく、一般のレストランでもとても安く食べられます。また、日本食もたくさんありました。

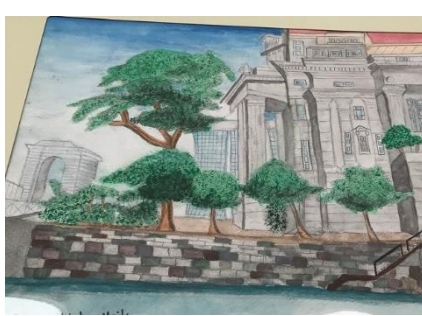
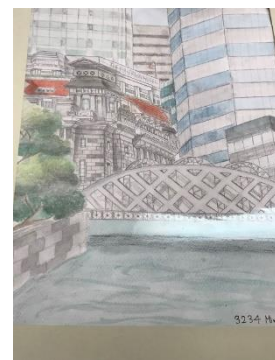
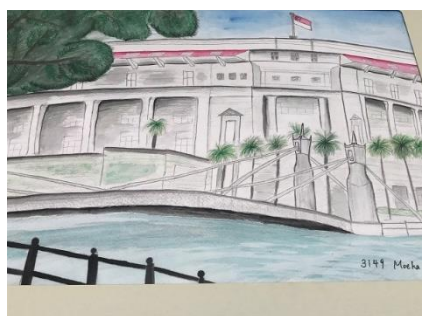
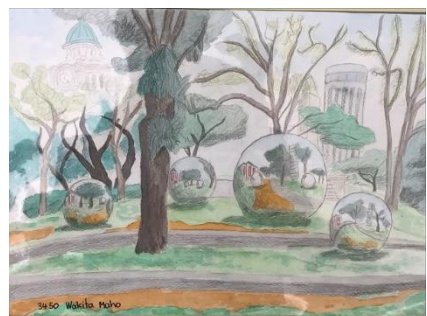
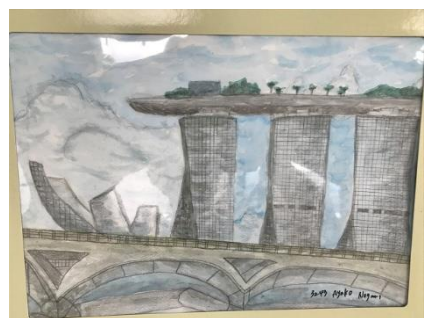


シンガポール便り 1 1 4

2017年1月31日 三好 隆志

中学部絵画作品

今回は、中学部の作品です。データ容量の関係で別にしました。シンガポールの街の風景を描いています。それぞれがお気に入りの場所を見つけていていねいに描いていました。小学生とは違った成長を感じます。



シンガポール便り 1 1 3

2017年1月30日 三好 隆志

SJ50 校内図工展 No2

校内図工展の特集第2回目です。今回は、4年生以上です。

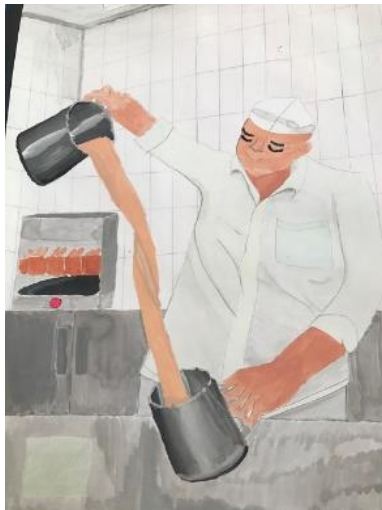
まず、4年生は「ほってすって」でした。版画で自分の姿を描いています。初めて彫刻刀を使う子どもがほとんどでしたが、細い線や短い線が、ここまで上手に彫れるようになりました。小さいパーツを残し、さらに立体感を出すために、彫る方向を変えて進めた顔の部分や、背景の様子が特に見所です。



次は、5年生の「くねくね糸のこパズル」です。5年生は、電動のこぎりの使い方を学習しました。安全に楽しく使うために何度も練習し、思い思いの形にパズルを切ることができました。絵具で色をぬる時には、木材をぬるのにふさわしい水や絵の具の量を考えて着色しました。それぞれ違うパズルの形や、5年生らしいパズルの絵が見所です。



6年生は、「シンガポールの思い出」という題でした。自分で撮影したシンガポールの思い出の景色を絵で表現しました。1枚の写真の中に似た色が多いものや、背景が暗いものなど描くのが難しいものもありました。似ている色を重ね塗りして立体感を出しているところや、点描やスパッタリングなどのモダンテクニックを取り入れているところが見所です。スパッタリングとは、絵の具を細かい目の網にぬりブラシでこすって絵の具を小さな粒にして画用紙に飛ばす絵画技法のことです。また、目の細かい網に絵の具をつけたブラシでこする方法もあります。ここから下の写真は、全て6年生の絵です。



シンガポール便り 1 1 2

2017年1月25日 三好 隆志

SJ50 校内図工展

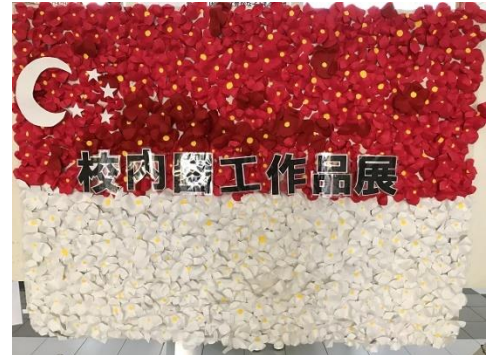
個人懇談会に合わせて、校内図工展が開かれました。今年は、SJ50つまり日本・シンガポール外交関係樹立50周年になります。そこで、シンガポール国旗や、SJ50のデコレーションをしています。その下のケーキは、高学年の子どもたちが一人ずつ作ったものです。展示は、エントランスホールに4～6年生の作品が飾られ、生活科室に1～3年生の作品が飾られました。

まず、1年生は「どうぶつだいすき」という題で、シンガポール動物園に校外学習に行った時に見た動物や好きな動物を粘土で表現しました。

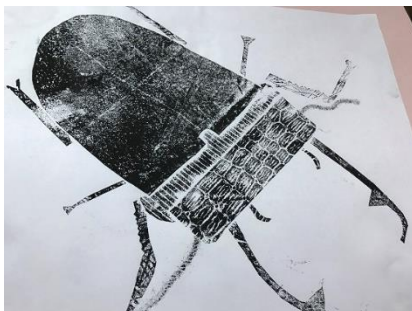
2年生は、昆虫をテーマに紙版画に挑戦しました。かまきりやとんぼやちょうなど、たくさんの昆虫が生き生きと飛び跳ねていました。

3年生は、「サンシャイン商店街へようこそ！」という題で、木を打ち付けて作った台の上に、ティッシュケースと紙粘土を使って、お店屋さんを作りました。

子どもたちは、図工の時間に全校の作品を鑑賞し、感想を伝え合いました。



1年生



2年生



3年生

シンガポール便り 1 1 1

2017年1月20日 三好 隆志

バス

シンガポールのバス会社は2つあります。「SMRT」と「SBS Transit」です。バスは、全部で4000台近くあるようです。運転手は、その倍の8000人くらいいるそうです。こちらでは、運転手のことをバスキャプテンと呼んでいます。女性の運転手もたくさん見ます。ただし、給与は決して高くはないようです。

シンガポールのバスで楽しいのは、走る広告になっていることです。ポディーからはみ出した3D 広告と呼ばれるものまであります。広告料は、2階建てバスで月に30万円近く、普通のバスはその半額だそうです。広告の仕方は、ラッピングと言われるもので、ペンキを塗っているわけではありません。はがすとすぐに取り換えられるわけです。

それでは、広告の説明をします。①携帯電話②化粧品バス用品③航空会社④牛乳⑤映画⑥時計⑦ヨーグルト⑧TV 番組⑨スーパーマーケット⑩旅行会社⑪洗剤⑫靴⑬薬





シンガポール便り 110

2017年1月15日 三好 隆志

ギャンブル

日本では、IR 法案が可決され、統合型リゾートができるようになっていくそうです。しかも、それはここシンガポールのマリーナベイサンズやセントーサがモデルになったみたいです。統合型リゾートとは、地方自治体の申請に基づきカジノの併設を認める区域を指定されて設置される国際会議場・展示施設などの MICE 施設、ホテル、商業施設（ショッピングモール）、レストラン、劇場・映画館、アミューズメントパーク、スポーツ施設、温浴施設などと一緒にした複合観光集客施設だそうです。

実は、ベイサンズのカジノにはまっている人たちが身近にもいます。確かに、それをめあてにした観光客も多いのでしょうか。ところが、私は父がパチンコの依存症みたいになって苦労した経験から、全くギャンブルはしません。いや、ドリーム宝くじくらいは買ったことがあります。

さて、シンガポールの庶民は写真のようなロトくじに夢中です。何でも1ドルで買って1等は1億円くらいで、当選者がいなかったらどんどん高額になるそうです。でも、当たる確率は日本の宝くじと大きく違うことはないと思います。とにかく、大きなくじの時には、いつも長蛇の列ができていました。どこでも万が一当たって億万長者になったらという夢を見たいのでしょうね。

プリウス

ハイブリットカーのプリウスが4代目にあたる現行になって、シンガポールでは爆発的に売れているようです。今回のモデルチェンジは、未来的なフォルムになって好き嫌いが分かれるようです。旧モデルでは、ほとんどがタクシーとして見るだけでした。今回は、環境に対する意識が強まっていることと、このデザインが受け入れられたということで、マイカーにしているシンガポール人が多いそうです。それでも、価格は何と1500万円だそう

です。それは、車の税金が100%かかる以外に、交通渋滞を避けるため、自動車所有者に COE (Certificate Of Entitlement、車両所有権証書) の取得を義務付け、その発行枚数をコントロールすることにより国内の車両台数を調整している政府の渋滞対策があ



ります。この制度は、1990年から導入されているもので、10年の有効期限です。COE価格は、入札によるため需要が多くなれば大きく値上がりします。例えば排気量1600cc以下の車両のCOEは、2007年に100万円くらいでしたが、2013年1月に史上高値となる700万円以上まで上昇しました。その後は、過熱感を懸念した政府による自動車ローンの頭金規制の強化等もあり下落し、現在は500万円程度となっているようです。学校には、カムリやエスティマなどの公用車がありますが、新車だと1500~2000万円もするという事なので、中古で購入しているそうです。10年でCOEが切れるため、プレミアカーでない限り、車の価値は0となって廃車や他の国に転売となります。だから、8年落ちのホンダフィットの場合、残り2年200万円くらいで購入するそうです。赴任して2~3年の任期の場合、自家用車としてこのような中古車を購入する人もいます。

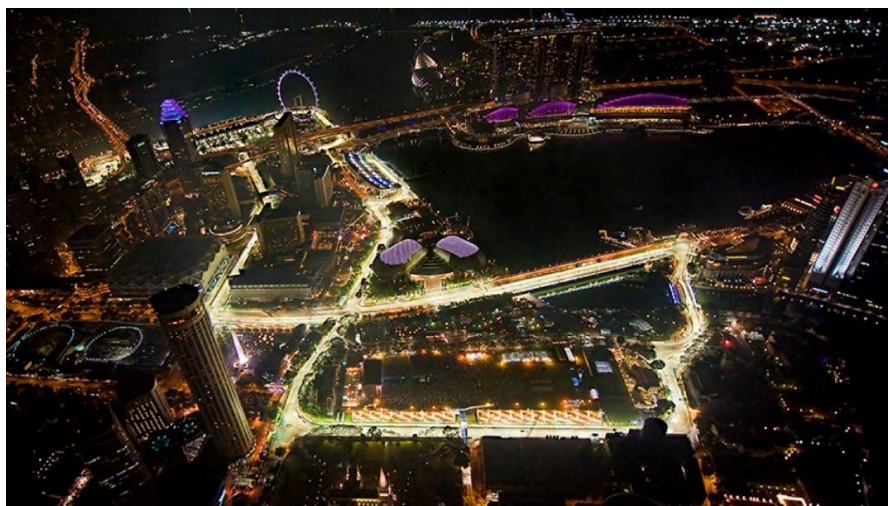
シンガポール便り 109

2017年1月10日 三好 隆志

F1 グランプリ2



F1 グランプリの特集を続けます。上のフェラーリのF1マシンは、マリーナベイサンズのショッピングモールに展示されていました。他にも、旧型のメルセデスやウィリアムズなどの旧型F1マシンが、様々な場所に展示されて、雰囲気盛り上げていました。F1グランプリは、プラクティ



スが金曜日、予選が土曜日、決勝が日曜日と3日間の開催となります。市街地コースのため、いたるところで通行止めとなって、集客力が増す面とF1に関心がない人にとっては不便な面があります。



写真のように、全長5 kmのコースの何カ所かにゲートが設けられて、厳重な荷物検査をしてから入場します。中に入ると、レーシングスーツデザインのポロシャツやキーホルダーなどの売り場がたくさんあります。真ん中の写真は、このレースで2位だったレッドブルのダニエル・リカルドです。そして、そのピットでのマシンセッティングの様子です。他にも、値段は通常の2倍くらいですが、ビールやコーラなどのドリンクやハンバーグなどの軽食が売られています。



上の写真は、フェラーリのピットです。シンガポールでも、フェラーリは人気のチームです。真ん中は、ピレリがレースでメルセデスチームに用意していたタイヤです。そして、右端はフォーミュラーカーのハンドルです。ゲーム機のコントローラーのようにも見えますが、何と500万円もするらしいです。車自体はエンジンが7000万円、車体と合わせて2億円近くするそうです。しかし開発費なども合わせると1台が20億円と言われることもあります。



上の写真は、ホームストレートのメインスタンドです。各チームのピットが見渡せます。値段は、10万円くらいになります。今年のレースは、メルセデスのニコ・ロズベルグが優勝しました。そして、初の年間チャンピオンとなりました。お父さんもチャンピオンでしたから、デimon・ヒルに続いての親子チャンピオンになったわけです。残念なことに、チャンピオンが決まった直後に引退を発表し、関係者を驚かせました。



レースが終わったら、花火が打ち上げられます。また、パダンステージという3万人くらい入る野外ステージで、有名ミュージシャンのコンサートが3晩に渡って開催されます。今年は、伝説的ロックバンド' QUEEN (クイーン)' のブライアン・メイ、ロジャー・テイラーとアメリカ人歌手アダム・ランバートによるコラボレーションバンドが出演し、私の大学生時代を懐かしみました。また、去年はボン・ジョヴィ、ファレル・ウィリアムズ、マルーン5などのトップミュージシャンがステージを飾りました。F1とコンサートがカップリングしていたのは、アメリカグランプリもで

予選後に今年のグラミー賞で3冠を達成したテイラー・スウィフトが出演したそうです。このコンサートは、そのための料金は必要なく、F1のファンでない人はレースを見ずに早くから前の席に陣取っているようです。ところで、来年までのレース開催契約が延長されるかどうか、現在問題になっています。それは、隣国マレーシアグランプリが入場者数が収容人数の半分以下約5万人と人気低迷で2018年をもって終了するように、ここシンガポールでも今年は約7万人と、過去最低だったからだそうです。何とか契約を更新して華やかなナイトレースを続けてほしいものです。



シンガポール便り 108

2017年1月5日 三好 隆志

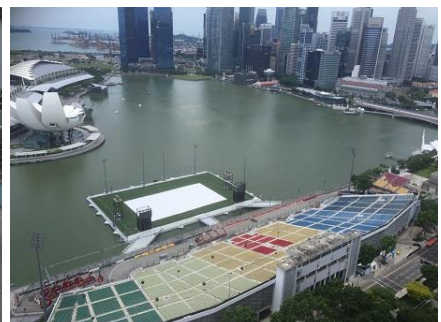
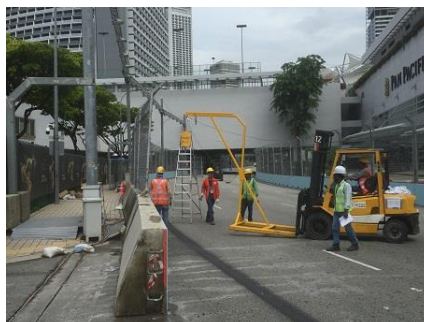
F1 グランプリ

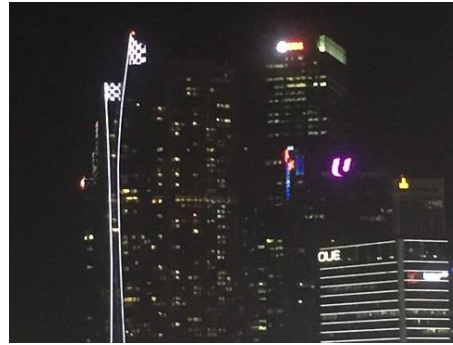


今回は、私が大好きなF1 グランプリの特集です。日本では、F1 の大ブームが起こったのは、今から30年近く前の1988年あたりです。ウィリアムズやマクラーレンといった名門チームにホンダエンジンを載せて、アイルトン・セナやアラン・プロスト、ナイジェル・マンセルや中島悟などの名ドライバーが活躍しました。私と同じ年の古舘伊知郎アナウンサーが、早口の独特な言い回しで実況を盛り上げていました。岡山にも、TIサーキットという山間のレース場が作られ、たった2回ですがパシフィックグランプリと銘うってF1が開催されたことがありました。しかし、私はTVだけでしか見たことがなくて、ここシンガポールで念願の観戦となったわけです。

さて、最初の写真はチケットの引き換え所です。スイスホテル・ザ・スタンフォードという五つ星ホテルのホールを貸し切って行っていました。次の写真は、3日間通しのチケットです。私は、一番スタンダードなシートにしたので2万5千円でした。ホテルでは、F1にちなんだデコレーションがしてありました。これは、フラトンホテルです。ちなみに、ホテルの宿泊料金は、部屋から観戦できる場合は通常価格の3倍くらいになります。例えば、2017年9月17日決勝の3日間、リッツ・カールトンのクラブルームに3泊すると65万円だそうです。

さて、シンガポールグランプリが開催されるようになったのは、2008年からで来年が10回目になるそうです。観客数は、約10万人を見込んでいるそうですが、今年は最も少なくて7万人だったそうです。観客の40%くらいは国外から来ていて、一番多いのはオーストラリア人だそうです。日本人も、レースの本場イギリスやドイツやアメリカより多くて4番目だそうです。だから、写真のように空港から市内への道路は大渋滞になります。シンガポールは、ストリートサーキットだから、一般道路を通行止めにしてフェンスなどを設置します。私が観戦したのは、右の写真のマ





リーナベイスタンドです。独立記念式典などで使用されて有名です。また、マリーナベイサンズなど超高層ビル群が一望出来て絶景です。上の写真は、スタンドから見たコースや景色です。直線は、200mほどしかなくて、追い抜きはほとんど見られません。でも、景色は最高です。ビルの中にはF1 にちなんで、チェッカーフラッグのイルミネーションを披露してくれているところもあります。実は、このヨット型のマンションには同僚が住んでいます。文部科学省の住宅手当では全く足りないはずですが、自分の手出しで補っているそうです。日本ではできない経験だからと、その価値を見出しているのでしょうか。確かに、自宅からマリーナベイサンズやマリーナ湾のマーライオンを見下ろし、独立記念のパレードが一望にできるわけですから、格別な立地ではあります。その右の写真は、ラッフルズプレイスの駅前に展示されていたウィリアムズのマシーンです。



F1 のコースは、パーマネントのレース場と、市街地を一時的に閉鎖するストリートサーキットとがあります。日本の鈴鹿や、イギリスのシルバーストーンなどはパーマネントのレース場です。それに対して、モナコやシンガポールは市街地のサーキットとして有名です。このサーキットのすぐ横に、有名なシンガポールフライヤーがあります。2008年に開業した高さ165mの観覧車で、その当時は世界一の大きさだったそうです。カプセルは28個あって、一周するのに30分かかります。すごく大きなカプセルだから、30人近く乗車できます。値段も、3,000円近くします。また、観覧車内で食事ができるスカイダイニングサービスもあります。カプセルの中に、テーブルとイスがセットされ、ディナーのコース料理が食べられます。この場合、30分1周だけでは短いため、2周1時間で食事をします。ただし、値段も高級で2万円くらいかかります。他にも、ハイティヤカクテルやシャンペン付きなどのコースが用意され、ただ景色を見るだけでも素晴らしいのですが、ちょっとリッチな気分させてくれます。最後の写真は、真下に見えるメインスタンドとピット前です。また、レースは熱帯で昼間は暑いから、夜の8時から行われます。その時は、このシンガポールフライヤーのイルミネーションが青く輝いて、とてもきれいです。そして、レースが終了すると、この辺りからたくさんの大きな花火が打ち上げられて彩を添えます。

シンガポール便り 107

2016年12月30日 三好 隆志

生き物

シンガポールには、いろいろな生き物が生息しています。大都会のシンガポールではありますが、緑の街づくりを推し進めて、自然も大切に残しています。

まず、右の写真は熱帯マイマイ（カタツムリ）です。マンションの植栽帯の近くで、雨上がりや早朝によく見かけます。日本のカタツムリとは全然違う格好で、大きさも結構なものです。だいたい8cm~10cmくらいもあります。どうも外来種らしく、アフリカから来ているようです。ヌートリアやブラックバスのように、国際自然保護連合（IUCN）の種の保全委員会が定めた、生態系や人間活動への影響が大きい生物のリストである世界のワースト100に入っているそうです。繁殖力旺盛で、世界の熱帯や亜熱帯に侵入し、嫌われているカタツムリのようなようです。

次はネズミです。右の写真は、マンション近くの側溝から出てきたネズミを速攻で写したものです。携帯のカメラは、スピード撮影が苦手らしくよく分からないですね。ホーカーセンターでは、ネズミにより食中毒が出ることがあり、写真のように駆除されています。

次はオオハッカです。全長は、25cmくらいです。街で見かける鳥の中で最も多いです。人慣れしていて、ホーカーセンターでは残飯をあさりに来ます。真っ黒な体にくちばしと足の黄色が目立ちます。ムクドリの仲間、だいたいつがいでいることが多いようです。尾の裏側の部分が白いのが特徴です。世界の主な生息地としては、タイ・マレーシア・インドネシア・台湾そして一部外来生物として日本にもいるそうです。雑食で、植物の種子やフルーツ、タニシなどの貝、イナゴやケラなどの昆虫、甲虫類やその幼虫などを食べるそうです。ムクドリ同様群れを作ります。鳴き声は澄んだ声で色々な音を出します。ものまねをする習性もあってペットで飼われることもあるそうです。ベドック警察署の前には、岡山市役所通りのムクドリと同様に、何千羽もの大群が街路樹に止まり、大騒音と糞の被害をもたらしていました。

最後はトンボです。右の写真は学校で捕まえたトンボです。シンガポールには120種類ほどのトンボがいるそうです。ちなみに日本には、200種類もいるそうです。



クリスマスコース ツリーを見に行こう！イベントに行ってみよう！

12月に入り、街のあちこちがクリスマスムードになりました。今回は、シンガポールのツリーや飾りを紹介します。紹介した以外にも街にはたくさんの飾り付けがあります。



ION Orchard



Orchard central



Paragon



Central



Tampines mall



Orchard gateway



Marina Bay Sands



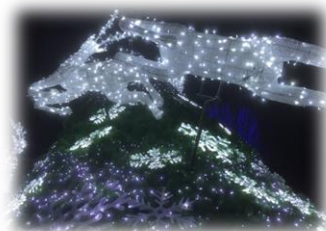
Bedok mall



Raffles Place

中華系、マレー系、インド系と様々な民族が共存する国家であるシンガポールでは、仏教やヒンディー教やイスラム教などの宗教を信じる人々がいます。でも、日本と一緒にクリスマスは宗教的な意味合いはなく、どの宗教の信者たちもみんなクリスマスを楽しんでいるようです。ホテルやオフィスや百貨店やモールで、クリスマスシーズンにはツリーを飾っています。また、会社や学校や友達や家族でプレゼント交換をするのが恒例になっているようです。シンガポールで飾られているクリスマスツリーは、大きなものが多いです。また、雪が降らない国だから、雪のデコレーションはあまり見かけません。常夏のシンガポールのクリスマスは、ヨーロッパや北米のような、落ち着いたロマンチックなクリスマスとは違って

明るくて開放的なイメージです。南半球のクリスマス同様、また違ったクリスマスを過ごしにシンガポールを訪れるのもお勧めです。また、きらびやかなイルミネーションも素敵です。その特集も今度挑戦したいと思います。それではハッピークリスマス。



シンガポール便り 105

2016年12月20日 三好 隆志

今年も、もうすぐ過ぎようとしています。海外にいと、日本の良さや特殊性について考えさせられます。日本人学校理事長の山下さんが、私たちに色々な話をしてくれました。山下さんは、日本航空のシンガポール支店長でもあります。日本航空は、2010年に経営破たんしました。その経験から、いくら大きな会社でも放漫経営は現代に適合せず、常にニーズに合わせた細かい経営戦略が必要なことを学んだそうです。その後明文化されたJALフィロソフィーには「人生・仕事の成果＝考え方×熱意×能力」という言葉があるそうです。日本人学校の教職員にも、このことは通じるものがあると思います。日本各地から集まった先生方は、いずれも個々の能力の高い方ばかりです。また、海外に出ていく熱意もあります。しかし、それだけではいけません。子どもたちのために全力を挙げることが大切です。シンガポールは、安心・安全で、深夜であっても女性が一人で街を歩くことが出来ます。しかし、大都会の魅力にはまってプライベート時間を楽しみ過ぎ、普段の勤務に支障をきたすようなことがあったら何のために来ているのかわかりません。多くのプティック・ホテルやレストラン・カジノなど、誘惑は限りなくありますが、日本人学校の教職員は例えアフリカや中東であろうと、子どもたちのために最善の努力を惜しまないでほしいと思っています。

さて、山下さんの職場は20名ほどだそうですが、日本人はたった2名だそうです。そこで、シンガポール人と日本人の特徴について、よく考えさせられると言われました。シンガポール人の良いところは、論理的な思考が高くコミュニケーション面でも議論や交渉が巧みだそうです。逆に、感謝の気持ちや地味な努力を積み重ねるといった点では、日本人の方が優れているそうです。他にも、日本人は「1を言われたら10を知る」というような行間を読む力や、問題の本質を捉える力にも秀でているそうです。では、このようなシンガポール人と日本人の違いから、日本のこれからの教育はどうあるべきか、ということです。それは、日本では知識偏重型教育がまだまだ行われているので、基本的な能力は高くまじめで信頼できるのですが、得た知識をもとに論理的な思考をアウトプットする訓練が圧倒的に不足しているということです。これは、特に高等教育の場で足りていないということです。日本は、世界から見れば大変画一性の高い社会で、ある意味特殊な国です。その反対に、シンガポールやアメリカなどは多様性の社会です。シンガポールでは、その多様な人たちが平和に共存しているわけです。だから、ここで多様性を許容し、理解したうえで論理的に考え意見を整理して伝えることが大切です。その時に、日本人として正しい考え方であったりぶれない考え方であったりするものをしっかりとつことがこれからのグローバル人材として大切なことなのです。



シンガポール便り 104

2016年12月15日 三好 隆志

帰国留学生会

帰国留学生会とは、日本で勉強した留学生がお互いに連携し、会を作って母国での留学生の地位向上や留学した国との交流を図ることなどを目的に結成された同窓会組織です。現在、全世界で組織されている帰国留学生会は120カ国・359団体に上るそうです。シンガポールでも、JUGASという名前で、日本に留学した経験のメンバーが同窓会組織を作っています。JUGASは1970年に設立されて以来、日本の大学を卒業した留学生たちで運営されてきました。現在の会員数は350名を超えているそうです。メンバー構成は、卒業したばかりの若い人たちから、多国籍企業やシンガポール企業のCEO、シンガポール政府の上級公務員といった高い社会的地位にある人まで、様々な留学生が登録しているそうです。そして、JUGASは日本大使館、シンガポール日本商工会議所（JCCI）、シンガポール日本文化協会（JCS）、シンガポール日本人会（JAS）、およびシンガポールの日本人学校や日本人コミュニティと緊密に連携しています。さらに、会員や一般の人々を対象に、様々な活動を実施しています。その一つが、今回取り上げる「日本語で遊ぼう」です。このようなイベントによって、シンガポールと日本の友好親善を深めるにとどまらず、日本の文化や日本語に対する一般の人々の理解を促進しています。このように、JUGASはシンガポールと日本の交流の窓口として大きな役割を果たしています。日本にとっても非常に大切な存在です。ですから、日本政府は在外公館などを通じて活動経費の一部支援・協力を行っているそうです。

日本語で遊ぼう2016 NIHONGO DE ASOBOU 2016



新加坡留日大学卒業生協会

シンガポール留日大学卒業生協会

Japanese University Graduates Association of Singapore

Blk 326, Ang Mo Kio Ave 3, #08-1996, Singapore 560326

Email: secretariat@jugas.org.sg Website: <http://wp.jugas.org.sg>



会場 シンガポール教育省語学センター (Ministry of Education Language Centre)

11, Bishan Street 14 Singapore 579782

会場校について

この会場校も、日本語を学ぶ場の一つとなっています。シンガポール教育省語学センターは教育省直轄の公的機関として、中学生・高校生を対象に第三言語としての日本語教育を行っているそうです。第三言語（日本語、フランス語、ドイツ語）を選択できるのは、小学校卒業試験の上位うで

そうです。第三言語（日本語、フランス語、ドイツ語）を選択できるのは、小学校卒業試験の上位 10%以内の生徒だけです。国際交流基金から日本人教師が数人派遣されています。その派遣者やシンガポール人の専門教師は、日本語講座での日本語教授、カリキュラム・教材作成に対する助言、現地教師の育成を行う他、シンガポール全体の日本語教育発展のため、日本語教師会への助言・協力、日本語教育セミナーの企画・実施などを行っています。ただし、こうして日本語を学び始める生徒達ですが、放課後、週に 2 回、バスあるいは電車で語学センターにやって来て、1 回 2 時間の授業を続けていくことは簡単ではありません。中学 1 年で 600 人いた人数は、300 人、150 人と学年を追うごとに半減していくそうです。

期日について

10 月 22 日（土）

内容について

日本とシンガポールの外交関係樹立 50 周年（SJ50）記念イベントとして「日本語で遊ぼう 2016」を開催しました。日本語を学ぶ中学生から大学生ら約 80 人が参加しました。まず、大ホールでチャンギ校の 6 人が担当の開会ゲームをしました。ラジオ体操と、命令ゲームです。最後は「命令、隣の人と手をつないで、みんな仲良く笑顔になりました。次は、4 教室に分かれてスイカ割りや連想ゲームなどを行いました。チャンギ校・クレメンティ校・中学校・語学センターと、それぞれが工夫を凝らしたゲームを通じて日本語や日本文化を学んでもらいました。イベントには篠田研次大使も夫人と共に参加、学生と日本語を通して交流しました。

日程について

開始は、8 時半です。開会式・ゲーム・昼食・閉会式と続いて終了は午後 2 時となりました。

チーム分けについて

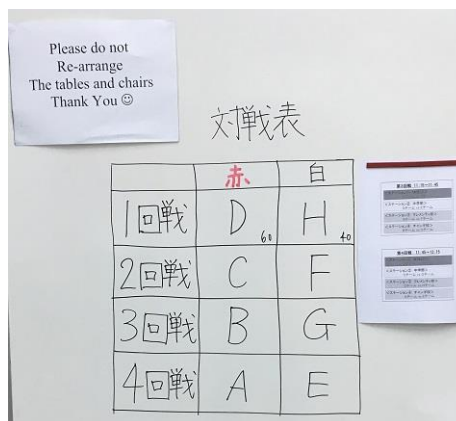
参加者全員を、日本語の能力で均等になるように 8 つのグループに分けました。そして、対戦相手を固定して、4 会場を回り得点合計で競いました。チャンギ校は、福笑いとスイカ割りを用意しました。大変好評で、みんなが笑顔になって良かったと思います。来年も、担当が外れたとしても来たいと思います。



ラジオ体操

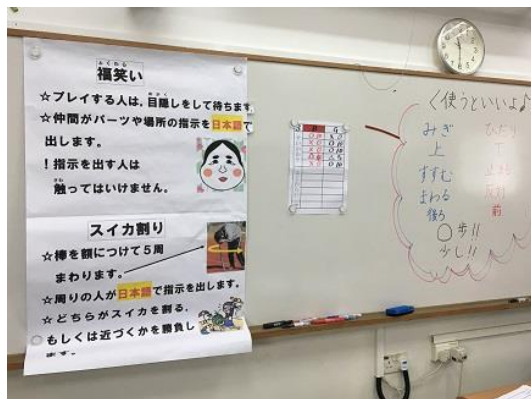


命令ゲーム





福笑い



スイカ割り



大使夫妻と共に

ゲーム終了後は表彰式が行われ、成績上位3チームにはJUGASのイー・ジェン・エン会長から、シンガポールの人気漫画家エヴァンジェリン・ネオさんによるシンガポールと日本の間の文化の違いを描いた漫画エッセイ本「EVA GOES SOLO」が進呈されました。教育省語学センターの日本語学科長であるタン・チンイエン氏は「今回のようなイベントでは、学生は失敗を恐れず、積極的に日本語を使います。今後も、こうした日本語を実際に使える機会を積極的に増やしていきたい。」と話されました。



シンガポール便り 103

2016年12月10日 三好 隆志

運動会

昨年は、9月にあった運動会。今年は、11月に実施しました。ヘイズ(大気汚染)で運動場での練習が難しかったからです。乾季が終わる11月なら、雨でヘイズがなくなると考えたわけです。ところが、今度は毎日毎日雨が降り、運動場がぬかるみになってしまいました。とうとう、芝生が腐ってどぶのようになってしまいました。排水不良、酸素不足が原因だと思います。職員が、砂をぬかるみに撒きましたが、全く足りません。これも、異常気象ということなのでしょう。子どもたちは、どろんこになりながらも一生懸命に演技しました。私が受け持っている子どもたちは高学年なので、自分のことだけでなく、学校全体のために自分から進んで働いてくれました。本当に素晴らしい子どもたちです。

ところで、シンガポール日本人学校の運動会は、日本国内と大きく違うことがあります。それは、テントを子どもたちや観客全員に立てることと、椅子も用意することです。そして、その準備は全て業者がします。教職員は、用具・看板・長机・スローガン・ライン引きなどを準備します。また、熱帯なので、午前中までで終わり弁当を食べて帰ります。しかし、演技種目は競争競技・徒競走・ダンス表現と基本通り3つあります。他にも、ラジオ体操や応援合戦、全校玉送りや選抜リレーなどもあるので、国内の運動会とほとんど変わりません。だから、演技の進行は非常にスピーディーです。また、練習時間も国内より短くて2週間ほどです。それは、英会話や外国語活動などを週に4時間とって、余裕時間が少ないからです。だから、全部で12時間の練習時間を、1時間1時間大切に集中して仕上げていきます。低学年でも、泥に足を取られ靴が脱げ、それでも最後までみんな走りぬいていました。高学年は、最後の運動会ということで思いを込めて演技したり、自分の色のために声をからして他の学年を応援したりしていました。その思いなどを載せた学級通信の1ページ目を次に紹介します。毎週このように1ページに学校生活の様子を、そしてもう1ページに次の週の予定やお知らせを掲載して発行しています。私の場合は、それにプラスして、一人ひとりの写真を変えて、全員に自分だけの通信を毎週発行しています。





シンガポール日本人学校
 チャンギ校
 5年5組 学級通信
 2016年11月18日 No.26

○ 運動会 ありがとうございました

運動会の練習が始まって2週間、ずっと雨との戦いでした。英会話スタッフが、今月はまだ本格的な雨季とはいえないのに、こんなに毎日雨ばかりは本当に異常気象で経験したことがないと話していました。昨年のヘイズに続き、世界的な環境問題を痛感させられます。当日は、やはり雷雨が予想され、プログラムを変更して行いました。子どもたちは、急な変更にもかかわらず、係活動など自分の役割をしっかりと果たすことができました。そして、子どもたちは立派に演技することができました。足下がぬかるんで練習の時と同じように大変でしたが、困難な状況でがんばったことは今後大きな自信となることでしょう。子どもたちが下校した後、大玉などを片付けていると大雨となりました。運動会の間はずっと晴れていたことに感謝しました。今年は、赤組が優勝しましたが、不思議に白組も満足している様子でした。多分、自分の限界に挑戦したり、係などの仕事で全校に貢献したりしたことで「高学年としての達成感」をもつことができていたからでしょう。そして、来年こそ最高学年として優勝をめざしてがんばりたいと、さらなる目標を立てている子どもたちでした。

子どもたちの日記から

「ソーラン節をすごくがんばりました。休み時間や帰りの会などで腕や足が痛くなるほどたくさん練習したからです。最初は難しいところがあったけど、練習しているうちになれてきてソーラン節が好きになりました。私は、今年のソーラン節は大成功だったと思います。そして、何よりもうれしかったのは当日雨が降らなかったことです。来年の運動会でも5年生に教えながらがんばりたいです。」

「今日の運動会は、特に応援をがんばりました。大きな拍手と言ったり、がんばってがんばってがんばってと言ったりしながら、1年生や2年生など全ての学年をまきこんで応援をし続けました。運動場が、くさくてべたべたで大変だったけれど、終わったときはその分うれしかったです。」

ボルトを越えろ！！80m走



応援合戦

総力戦大綱引き

SJ50～シンガポールと日本～



シンガポール便り 102

2016年12月5日 三好 隆志

国際理解の一環としてシンガポール日本人会の重鎮で特命顧問（元事務局長）の杉野一夫氏に学校へ来てもらって「シンガポール人の生活に学ぶ」という講義を受けました。その時のレポートです。

杉野氏がシンガポールに来たのは1972年。シンガポール人と結婚して、お子さんたちを当地で育て、シンガポールの成長と共に歩んでこられました。この40年間の思いを教育という視点でお話ししてもらいました。1984年に事務局次長として日本人会に勤め始めて30年、事務局長に就任して以来27年が経ちました。現在は、特命顧問をされています。その間、1985年日本人会にクリニックが設立、1987年墓地の大改修工事が実施、1989年日本人会に「高校誘致対策委員会」が発足、1995年に日本人学校チャンギ校が建設されました。そして1998年には念願の新会館が建設されました。1987年200人で始まった夏祭りは今では1万人が集まる巨大行事になりました。2003年から参加しているチンゲイパレードも毎年日本人会として500人近くが参加し、立派な賞を受賞しています。また、100年史の編纂や南十字星の数々の記事を書かれている他、史跡資料部のマップ編集など部内でリーダーシップを発揮しご尽力されています。



講義

シンガポールは、50年前にマレーシアから独立した際は、このように発展するとは誰も考えていなかった。しかし、現在では1人当たりGDP世界8位を誇る。ちなみに日本は20位である。成功の要因は、不利な条件を逆手に取ったことである。移民社会として人口比率は中華系75%、マレー系15%インド系9%であるが、普通は宗教間の対立など多民族の共存は難しい。しかし、シンガポールでは他民族への理解のため、国民を人口比率のままに公団アパートへの居住を図った。持ち家比率は90%を超え、他民族への理解とシンガポール国民としての統一されたアイデンティティーが育成された。国土は、世界第188位と非常に小さな国であるが、それもスピード感のある開発として、道路などのインフラ整備に逆手に取った。資源がないことについても、付加価値をつけて輸出する技術力の発展に力を入れた。水についても、マレーシアから買ってはいけるが、貯水池の整備や浄水技術の発展などに力を入れ、自国で賄う見通しをもった。国が行う政策については、国民の不満は表に出てこない。例えば、東部のタナメラカントリークラブは名門のゴルフコースで、宮里藍や上田桃子が来てワールドツアーを行ったこともあるが、チャンギ国際空港の第5ターミナル建設のため、6ホールをつぶされてしまった。また、西部のジュロンカントリークラブなどは、マレーシア高速鉄道の終着駅として撤収されている。もちろん、補償はあるが国の発展のためと理解されているわけである。そして、国は人なりと、とりわけ教育には力を入れている。その結果シンガポール大学は、アジアナンバー1として有名である。しかし、最近では過当競争に反省点もあり、小学校卒業時に実施されるPSLEの全国試験で、優秀な成績だっ

た学校や生徒の発表は中止されている。子どもだけでなく教師のプレッシャーも相当なものがあったからである。しかし、相変わらず能力主義は現在でも変わらない。

質問

1 シンガポール人の誇りは何か。

発展してきたことと、資産があること。

2 日本人の短所は何と考えているのか。

負の遺産（戦争の虐殺など）

3 「報道の自由度ランキング」では180か国中153位（日本は61位）。どんな規制があるか。

新聞社の株式を政府がもち、社長は政府関係者であったりするため、批判的な記事は書きにくい。

4 米調査会社ギャラップが12年に発表した日常生活の「幸福度」調査では、シンガポールは148カ国中最下位だったというなぜか。

小学校から能力主義でプレッシャーがかかっている。幸福度は相対的なものであり、物質的には恵まれていなくてもブータンなどは幸福の国と言われている。また、外国人の比率が毎年増加していて少子高齢化のシンガポール社会を支える生産性の高い外国人を受け入れている。そのため、よく思わない国民も多い。

5 国民一人当たりの所得、約900万円（2位）日本約450万円（17位）2013年WHO 2倍もあるが金持ちと貧しい人との格差が大きいのか。

格差は大きい。底辺の人々の支え方が課題である。しかし、日本と異なりホームレスは違法となっていて逮捕される。また、HDB（公団住宅）を月7000円くらいで貸したり、技術習得をさせたりして自立支援している。医療面でも政府系のポリクリニックでは、風邪だと1000円くらいですむし、月収12万円以下は無料である。また、子どもと60歳以上の高齢者は半額となっている。

6 PSLE 全国統一試験の弊害。大器晩成型や落ちこぼれの運命は。

小学校卒業時に進路を決定する全国テストがある。5%がスーパースクールに進学するエリートで50%が普通科、45%が技術系学校に進学する。ITEと呼ばれる技術系学校では、カメラ・料理・ホテルなどの業界に進み、就職率は良い。日本のようなフリーターはいない。

7 バブル崩壊はあるか。

政府が不動産などもコントロールしていて、まず起こらないであろう。



シンガポール便り 101

2016年11月30日 三好 隆志

今回は、1年生の学校交流の様子を主任の先生にレポートしてもらいました。

ハロー！ 日本人学校

「もっといっぱい、おともだちをつくりたいです。えいごがじょうずになれるといいです。」

シンガポール日本人学校小学部チャンギ校では「一人ひとりの無限の可能性を伸ばし 夢抱く 国際感覚豊かな子どもの育成」を目指し、様々な教育活動を行っています。その中の一つである「外国語活動」の一環として、毎年、現地校との学校交流があります。チャンギ校では、現地校との交流を通して国際理解教育に取り組むとともに、英会話の時間に学習したことを、実際にコミュニケーションの場面で子どもたちが積極的に使おうとする気持ちを育むことを目的としています。学校交流には、英会話スタッフも同行し、子どもたちが日ごろ学習した英会話をどれくらい使うことができるかを確認し、これからの英会話の授業に生かしていく目的もあります。毎年、1, 2年生はエライヤス校、3, 4年生はテマセク校、5, 6年生はイーミン校と、それぞれの学校を訪問したり招いたりします。今回は、今年7月に1年生が行った交流の様子についてお伝えします。

☆エライヤス校のお友だちを迎えよう

交流日の約3週間前から、エライヤス校を迎えるための準備を始めました。一緒に歌う「ハローソング」の練習、名刺交換をするために必要な英会話、折り紙手裏剣の作り方の3つです。特に手裏剣作りはそれだけでも難しいのですが、それを1年生が英語で説明するのは一苦労です。英会話担当のイングリッシュスタッフの腕の見せどころでもあります。子どもたちも真剣です。ホームルームに戻ってからも担任の先生と何度も練習しました。休み時間にも的当ての練習を繰り返しました。また、開会式と閉会式で代表に選ばれた子どもたちは、学校だけでなく、家に帰ってからも挨拶の練習をしていたそうです。こうして、みんなでエライヤス校のお友だちが来てくれる日を楽しみに待ちました。



☆エライヤス校のお友だちが来てくれました

7月14日、いよいよエライヤス校のお友だちとの交流の日です。朝から、「なんだか、ドキドキする。」
「エライヤス校のお友だちは、いつくるの?」「まだ着替えなくていいの?」「手裏剣は何個プレゼントしていいの?」と、子どもたちは何度も聞いてきます。

体育館にエライヤス校のお友だちが入場し、開会式のあいさつも上手に出来ました。最初の活動は歌のプレゼントです。イメージ音楽で習った「ぞうさん」を英語と中国語と日本語で、「going to the zoo」を英語で、かわいい振付付きで歌いました。

次に、エライヤス校のお友だちと一緒に「ハロー ソング」を歌います。この曲はお互いの手と手を合わせながら歌うのですが、初めは緊張していた子どもたちも、歌いながら手と手が触れると自然に笑顔がこぼれるようになりました。練習の時にイングリッシュスタッフが、「日本人はシャイな人が多く、英語を話すことに積極的になれない時があるけれど、目と目を見て、手と手が触れると自然とリラックスして話せるようになると思うわ。」と言っていましたが、自然と打ち解けていく子どもたちの様子を見て納得です。



次は、名刺交換ゲームです。お互いの名前を伝え合い、それぞれのカードに名前を書きます。英語やローマ字に慣れていない子もそうでない子も、みんな懸命に自分の名前を書き、相手の名前を書いてもらおうとしていました。自分の言いたいことが相手に伝わっているかどうか、少し心配そうにカードを覗く子どもたちの顔が可愛らしかったです。カードがお友だちの名前でいっぱいになると子どもたちはとても満足そうでした。



最後は、いよいよ手裏剣ゲームです。「日本では昔、忍者が手裏剣を使っていました。」と英語で説明がありました。エライヤス校の子に「忍者を知っている？」と質問すると、知っている子が半分くらいもいて驚きました。チャンギ校の子どもたちは、練習の成果を発揮して、手裏剣の作り方を丁寧に教えていました。そして完成した手裏剣を使つて的当てゲームをします。あるペアと一緒に手をつないで的まで行っていました。つながれた小さな手がほほえましかったです。小学校低学年にとって現地校の友だちと仲良くなるのには、遊びやゲームが一番自然で一番の近道なのかもしれません。

活動後の子どもたちの感想の中に、「もっといっぱいおともだちをつくりたいです。えいごがじょうずになれるといいです。」と書いてありました。ローカル校に通っている子は別として、シンガポールに住んでいても、現地の人と話したり活動したりする機会はなかなか多くありません。子どもたちにとって、こうした交流は、英語を身に付けたいという動機づけの一つになるのだと思いました。



☆エライヤス校に行きました

7月25日、今度はチャンギ校の子どもたちがエライヤス校を訪問する日です。子どもたちは前回の交流を終えてからずっと、エライヤス校に行く日を楽しみにしていました。バスの中でも「この前会った友だちにまた会えるかな。」「どんなゲームするのかな?」と、とてもわくわくした様子でした。到着すると、2階の大ホールに大きな拍手で迎えられました。開会式の後、全員で「チキンダンス」を踊りました。覚えやすく面白い動きのダンスで、子どもたちの緊張もほぐれました。



次に、エライヤス校が用意してくれた紙風船、クティクティ、ピックアップ・スティックで一緒に遊びました。紙風船はこちらでは「ペーパーボール」と呼ばれ、シンガポールでも昔から遊ばれていたそうです。クティクティは様々な色と形があり、日本のおはじきの遊び方と似ています。最近流行している剣玉もそうですが、日本とシンガポールの遊びには共通点が多くあるように思いました。1年生の生活科の単元で「日本と中国のお正月」について学習するのですが、お年玉と紅包、おせち料理と魚生、獅子舞とライオンダンスなど、やはり似ている事がたくさんあることに驚きます。



2度目の交流ということもあり、子どもたちはすぐに打ち解け、楽しくも有意義な時間を過ごすことができました。

帰りのバスの中で、「エライヤス校の子は、お弁当を食べないと思うよ。」という子がいました。「どうして？」と聞くと、「だって、レストランがあったよ。きっと、あそこでお昼ご飯を食べているはずだよ。」と言います。別の子も、「そうだよ、チキンライスの匂いがしたよ。」と話します。ほんの一瞬のことも見逃さない観察力に感心しました。子どもたちの興味関心は尽きることはありません。

☆エライヤス校との交流を終えて

《子どもたちの感想より》（原文のまま）

「さいしょは、ちょっとどきどきしました。さいしょのすぴいちがきんちょうで、えらいすこうのひととやるのがなんかやだなとおもってました。だけど、ちょっとずつたのしくなりました。えいごのがっこうのひとは1の1じゃなくて、P1なんだとおもいました。かえるときは、ちょっとだけさみしかったです。」

「えらいすこうのひとと、おともだちになりました。おともだちがふえてうれしいです。ちゃんぎのこも、もくようびにえらいすこうにいきます。たのしみです。どんなあそびをかंगाえてくれるのか、たのしみにしています。もっといっぱいおともだちをつくりたいです。えいごがじょうずになれるといいです。」

「えらいすこうでは、ちきんだんと、かみふうせんと、ぴっくあっぷすていっくと、くていくていをしました。くていくていは、いろんなどうぶつのかたちがありました。りす、かぶとむし、さかなです。まえにあったともだちがうしろにいました。うれしかったです。また2ねんせいになってあえるといいです。」

学校交流は国際理解教育と英語力の向上をねらいとしていますが、それだけでなく、子どもたちの心も豊かにする活動でもあると思います。

言語環境において、チャンギ校には様々な子どもたちが入学してきます。シンガポール生まれでローカル幼稚園に通っていた子は英語だけでなく中国語も理解できます。一方、シンガポールで日系の幼稚園に通っていた子や、3月まで日本の幼稚園に通っていた子もいますから、個々の英語力にはとても違いがあります。そのため、チャンギ校の英会話の授業は、レベル別少人数クラスで学習しています。しかし、外国語活動は普通のクラスで行うので、英語の得意な子と苦手な子が一緒に活動することになります。すると、英語の得意な子がさりげなく困っている子を助けたり、苦手な子が何とか自分の意思を相手

に伝えようと身振り手振りで頑張ったりする姿を見ることができます。また、招待交流する時には「エライヤス校の友だちをおもてなしたい。」という気持ちにあふれ、休み時間や帰宅後にも会話や活動の練習している子がたくさんいました。

こうした「心の活動」ができることも外国語活動の良さなのだと思います。そして、子どもたちのこうした素直で、優しい、前向きな気持ちを育んでくれるシンガポールの教育環境にも感謝したいと思います。